

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く

153

イヌワシ①

―米原市の豊かな自然のシンボル―

生物多様性の頂点

伊吹山の山頂から、はるかに望む白山や御嶽山を背景に空を舞うイヌワシ。翼を広げると二メートルにもなる大きな鳥です。この大きな羽は、飛ぶときにはほとんど動かすことがなく、いったん風をつかまえると、羽を広げたまま空を縫うように飛んでいきます。その姿はとても勇壮です。

現在、伊吹山には一つのイヌワシが棲んでいます。その行動範囲(縄張り)は七〇〜二〇〇平方キロメートルといわれ、山手線の内側が約六〇平方キロメートルで、世界でも屈指の人口密度のエリアも、イヌワシにしてみれば二羽だけのスペースというわけです。そのスケールの大きさを考えると驚くばかり。米原の空を見上げて、ここにイヌワシが飛んでいると思うと楽しいですね。

自然界は生物多様性で、さまざまな生物が生息してはじめて生態系のバランスが保たれます。イヌワシは、伊吹山における食物連鎖の頂点に立ち、生態系のバランスを保つのに重要な役割を果たしています。言い換えるとイヌワシが生息でき

る伊吹山の森林は豊かで生態系のバランスのとれた環境といえます。イヌワシは国民共有のかけがえのない生物であり、次世代に引き継いでいかなければならない素晴らしい自然資産です。米原市にはイヌワシが舞う誇るべき自然があります。

今年三月、米原市を拠点に、国内のホッケーの最高峰・日本リーグに参戦する男子のクラブチーム「BlueSticks SHIGA」が誕生しました。そのエンブレムのモチーフはイヌワシです。イヌワシの強さ、気高さ。古来より人々の敬意と憧れの対象であったイヌワシが飛翔するさまは、ステイックを巧みに操りピッチを疾走する選手たちのイメージと重なります。まさに、イヌワシは米原市のシンボルなのです。

子育てがうまくいかない

イヌワシは、国の天然記念物であり、国内希少野生動物種(国内で絶滅の恐れのある種)、レッドデータブック絶滅危惧IB類(近い将来、野生で絶滅の危険性が高い種)などに指定され、法律上で保護されています。

現在、日本のイヌワシの推定生息数は、一五〇〜二〇〇組と単独個体を合わせた約五〇〇羽といわれています。かつて滋賀県内には一〇組程度が生息していましたが、鈴鹿の山々では、現在その生息が確認されていないようです。多くの生息地では、大規模開発、森林伐採、単一樹種による大規模な植林などにより、イヌワシの餌となるノウサギやヤマドリが減少し、環境汚染物質の影響などによって絶滅の危機に追い詰められています。

昨年七月、伊吹山では十数年ぶりに巣立ったイヌワシの幼鳥がケガをしてうずくまっていたところを保護されましたが、残念ながら死亡しました。教育委員会では、米原市の豊かな自然を物語るシンボルであるこの幼鳥を、「米原市の宝」として剥製標本にし、永く保存、公開することにしました。米原の子どもたちには故郷の誇りとして、来訪する人々には、この雄大な自然を知り、親しんでいただきたいと思えます。(歴史文化財保護課)



▲完成したイヌワシの幼鳥の剥製 (伊吹山文化資料館)

消費生活相談コーナー

新型コロナウイルス便乗詐欺に注意

市職員を名乗り、個人情報を聞き出そうとする不審電話や、注文していないマスクが突然送られてくるといった新型コロナウイルス対策に便乗した詐欺が増えています。



消費生活相談員より一言

新型コロナウイルス関連で「マスク」「給付金」「申請代行」などの言葉を使った支払要求や、個人情報を聞き出そうとする電話には十分注意してください。

「おかしいな」と思ったら
一人で悩まず、
まずは消費生活相談窓口へ
ご相談ください。

市 消費生活相談窓口 (米原庁舎)

相談専用 ☎52-8088

〔受付〕平日9時30分～16時



【米原警察署情報】 問 米原警察署 ☎52-0110

「すり替え詐欺」にご注意を

警察官や、金融機関職員を装った人物から電話がきます。「現金が口座から引き出されている」「口座を止めるから新しい暗証番号が使えるまで封筒に入れて保管しておいて」と、キャッシュカードと暗証番号を書いたメモを封筒に用意させ、詐欺グループが自宅を訪問。被害者に席を外させた際に、あらかじめ用意した別の封筒とすり替えカードを騙しとるもの。

すり替え詐欺に遭わないために

警察官や金融機関職員が電話で暗証番号を聞いたり、自宅を訪れてキャッシュカードを確認したりするようなことはありません。少しでも不審に感じたら、すぐに家族や警察に相談しましょう。



令和2年市内交通事故数(5月末時点)

件数 7件(−5件)、死者 0人(0人)

傷者 7人(−9人)

※()内は前年比